

平成23年度 指定管理者評価結果

施設名	岐阜県立ひまわりの丘第一～第四学園
指定管理者	社会福祉法人 岐阜県福祉事業団
共同体である 場合の構成員	
施設所管課	健康福祉部 障害福祉課
評価委員 による 評価	管理基準の充足状況 <ul style="list-style-type: none"> ・管理物件の保守・管理はほぼ適正に行われている。 ・建物が老朽化して破損箇所が多く、またバリアフリーでは無いことから、利用者の高齢化・重度化が進む中、修繕やソフト面での工夫では限界があり、利用者の生活環境の改善を図るため早急な対応が必要である。（第三学園） ・職員研修の方法を工夫するなど、積極的に職員の質の向上に取り組んでいる。 ・CS調査等により、利用者からの意見聴取に努めており、利用者の高齢化、病弱化への対応や利用者の支援向上を図っている。 ・職員配置において、第一・第二学園では改善も見られるが、非正規職員の比率が高いことから、職員の意識改革を図り適正なサービスを提供するためには、適正な職員配置であるのか検討する必要がある。
	設置目的の達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・定員に対する利用者数は充足されており、県民ニーズに応えている。 ・短期入所・日中一時支援により積極的に在宅障がい者の受け入れを行っていることは評価できる。特別支援学校の日中一時支援の要望に対する前向きな取り組みを期待する。 ・発達障がい児・者とその家族に対する支援活動の充実を期待する。 ・利用者の高齢化・重度化に伴うサービス支援体制の見直しを進める必要がある。（第三・第四学園） ・各学園それぞれが、方向性を持って特色を活かそうと努力していることは認められるが、4学園全体では300人以上の利用者がおり、年齢も障がいの状況も様々であることから、各学園が特色化に努め、連携化を図り、総合支援施設として県下の障がい者福祉の拠点施設となるべきである。
	公共性の確保の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルは整備されており、現施設でも利用者の安全・安心な生活が営めるよう努めている。 ・利用者ニーズを把握し、利用者の状態の変化に合わせた生活の支援、日中活動等の充実による豊かな生活の支援に取り組んでいる。 ・地域との関係、連携は図られている。
	経営状況 <ul style="list-style-type: none"> ・収支報告書による収支状況は適切である。 ・食材の共同購入、自主事業の充実などで経営努力がなされている。 ・本部への経理区分間繰入金支出額が多額となっているが、職員の正規化（人件費比率の見直し）や老朽化した施設の修繕等、利用者のサービス向上のために各施設が緊急に対応すべき課題に充当するべきではないかを検討する必要がある。 ・経理区分間繰入金支出の相手方である本部会計の状況が不明。
	その他派生的効果等 <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの丘研修部会として地域講演会を開催するなど、専門性を活かした地域交流を行っており、この地域での貢献度は大きい。今後は4学園がさらに特色

	<p>を活かしてニーズに応じていくことを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティアの懇談会を各施設ごとに実施し、よりきめ細かい活動の展開に繋げるシステムとしたことは評価できる。今後は施設内に留まらず、施設外行事や催し物への参加など、利用者の生活の幅を広げQOLの向上を目指した取り組みを期待する。
県 の 評 価	<ul style="list-style-type: none">・協定書に定めるサービス水準を満たし、適切に管理されている。